

茶室覚書

(豊臣秀吉 千利休) 1586年
三畳上座床 きんのちゃしつ

黄金の茶室

- 壁天井：金装（格天井／柱／床框／敷居／鴨居）
壁は4.6寸程（139cm）の板を横に重ね張り（御所への搬入と金箔貼りを考慮して）
- 建具：金装 框／棧／腰板
障子は赤色紋紗（もんしゃ）紗の透ける所／平織りの透けない所で文様を織り出す
- 畳表：濃赤の羅紗地（らしや）紡毛を密に織り起毛させた、厚地の毛織物 羅紗地の下に真綿敷き
- 畳縁：紺地の金欄 文献には他の地色に黒地／萌黄色（もえぎ 黄がかった緑）があり特定できない

MOA美術館に、数奇屋建築の大家、堀口捨己監修のもと復元
・豊臣秀吉が、正親町天皇に茶を献じるために、京都御所内の小御所に設置した組立式の黄金の茶室
・点前座に黄金の台子／皆具の道具組
・全体を金と赤でまとめ上げたデザイン
畳の赤は猩猩緋（しょうじょうひ）色と言われ、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の舶来品で珍重された色
・当時の小御所の書院造りは薄暗く襖絵も無い質素な空間と思われ、その中に一輪の華を据えるようにデザインしたのではないかと（藤森照信談）



間取図

